

## 需要に応じた産地づくりを進めるための研修会を開催

9月27日(火)は豊郷町で、10月11日(木)は愛荘町で認定農業者や集落営農法人等を参集して麦・大豆の産地として定着を図るために各町と共催で研修会を開催しました。

研修会には、豊郷町は6つの集落営農法人から20名が参加、愛荘町では集落営農法人や認定農業者など57名が参加しました。

研修会は、近畿農政局滋賀支局が「米をめぐる情勢」を、JA東びわこが「米・麦・大豆の情勢」を、当課が「麦+大豆栽培のすすめ」と「小麦の排水対策による収量向上」について研修を行いました。また、小麦+大豆を経営の柱とした農業経営の事例として経営面積の約半分を小麦+大豆の生産を行う(農)アグリ安食西の組合長からと集落営農法人の取組状況を報告していただきました。

参加者からは麦+大豆の経営収支の状況について熱心に質問されるなど今後の経営の方向について関心が高まったと考えられました。一方、愛荘町では小麦の収量が低い地域もあり、収益性に課題があるなど問題も明確になりました。



平成30年10月11日19時より愛荘営農センターで開催された「平成31年産米・麦・大豆の取組推進研修会」のようす